

## 平成 23 年度文化財保護事業報告

1. 委員会・・・「清須市文化財保護条例」(平成 17 年 7 月 7 日条例第 85 号)  
「清須市文化財保護規則」(平成 17 年 7 月 7 日教育委員会規則第 31 号)に基づいて設置。

文化財保護審議会 年一回開催 平成 24 年 2 月 23 日

2. 文化財保護・・・時代推移の中で先人が残した貴重な文化財を後世に残すべく、郷土の歴史の特徴をあらわした文化財資料を中心に保存と保護を図る。

- (1)文化財の指定 清須市内の指定文化財は国・県・市指定を含めて 32 件。  
【清須市内指定文化財等一覧】(資料 3)

### (2)埋蔵文化財の保護

清須市内には、弥生時代最大級の集落とされる朝日遺跡、清洲城下町遺跡等が存在し清洲地区を中心に埋蔵文化財包蔵地広く分布している。埋蔵文化財包蔵地の周知、有無の確認、発掘にかかる届出の受理、発掘調査等の実施等に対応している。

平成 23 年度 有無照会：5 件、発掘届出：93 件、発掘通知：1 件  
確認調査：3 件、本発掘調査：2 件 (2 月 1 日現在)

【清須市内の遺跡一覧】(資料 3)

### (3)歴史資料整理業務委託事業

所蔵資料の適切な管理・保管のため、民具資料を中心とした所蔵資料の再整理と新規の台帳作成及びデータベース化を継続して行った。

3. 啓発活動・・・生活様式及び社会環境の変化の中で、失われていく文化遺産(埋蔵文化財・史料・民俗・環境・自然等)の大切さを理解し、文化財愛護と保護活動への意識向上を図る。

### (1)文化財収蔵品展

期 日 平成 23 年 9 月 10 日(土)～10 月 2 日(日)

開催場所 清須市はるひ美術館

テーマ 平成 23 年度清須市文化財収蔵品展

「清須を彩る－幕末・明治の中京画壇－」

展示内容 清須市所蔵文化財から幕末から明治時代にかけて「中京画壇」で活躍した画家の作品を紹介する展覧会を開催した。森高雅や織田杏齋等中京画壇を代表する画家や丹羽有芳や猪子春年等郷土の画人の作品も紹介した。

入館者数 180 名

## (2)文化財講座・講演会

### ・文化財講座

会 場 清洲市民センター

定 員 40名 受講者数 延べ 192名

回	月／日	内 容	講 師（敬称略）
1	5月27日	町名の清洲越とその後	元小学校教諭 坪井文一
2	6月24日	清洲城址の変遷	名古屋大学大学院文学研究科 特任准教授 石川 寛
3	7月22日	縄文時代の朝日遺跡	県埋蔵文化財センター 調査研究専門員 川添和暁
4	8月26日	あたらしい朝日遺跡像を考える	県埋蔵文化財センター 調査研究専門員 永井宏幸
5	9月22日	清須産物考～知られざる名産品～	清須市歴史文化振興員 安達奈々

### ・文化財講演会

#### ①「朝日遺跡からみる邪馬台国時代」

期 日 平成23年9月4日（土）

開催場所 カルチバ新川文化ホール

入場者数 約40名

内 容 清須市内に存在する県下最大の弥生集落である朝日遺跡を通じて、邪馬台国に対抗したといわれる狗奴国と弥生時代のこの地域の社会・文化についての講演を行った。

#### ②「近世城下町の暮らし～名古屋城下の人々～」

期 日 平成24年1月28日（土）

開催場所 創造センタードレミホール

入場者数 約40名

内 容 近世の名古屋城下では日々どのような暮らしが営まれていたのかを古文書などの文献史学と発掘調査などの考古学の両面から明らかにし、当時の衣食住について講演を行った。

## (3)文化財関係刊行物の販売

生涯学習課と西枇杷島問屋記念館にて刊行物の販売を行なっている。

【文化財関係刊行物一覧】（資料3）

## (4)歴史文化振興事業

新川町史の編纂を行ない、平成19年度に『新川町史 通史編』を刊行し事業は終

了したが、資料返却や資料調査を継続して行っている。併せて清須市で所蔵する資料の調査・整理作業を行っている。

#### (5)歴史資料展示室整備事業

清須市立図書館整備に伴い、館内の多目的ホールを改修し、市の歴史資料展示室と位置づけ、清須市の歴史と文化を紹介する展示施設を整備することになった。

清須市の歴史を概観できる常設コーナーとより深いテーマ性をもつ展示を行う企画コーナーを設けて市民に親しみの持てる、わかりやすい施設を目指す。

なお、新図書館オープンに合わせて、特別展を開催する。

### 4. 施設管理・運営・・・各方面からの寄贈により収集された貴重な文化財資料の保存・管理に努めるとともに、それらを整理・展示して広く一般公開を図る。

#### (1)西枇杷島問屋記念館

名 称 清須市西枇杷島問屋記念館

所在地 清須市西枇杷島町西六軒 20

面 積 敷地面積 1,391.55 m<sup>2</sup> 延床面積 151.62 m<sup>2</sup>

主 屋 98.82 m<sup>2</sup> 離 れ 52.80 m<sup>2</sup>

構 造 木造 2 階建

開 館 平成 5 年 4 月

概 要 「下小田井の市」の創始者の一人といわれる九左衛門家の住居を、平成 4(1992)年に、移築復元したもの。明治初期に建てられ、美濃路を形成してきた町家のなかでも江戸時代の青物問屋の様式を伝える貴重な建物。

開館日数 304 日 (61 日休館)

入場者数 2,946 名 (2 月 1 日現在)

①冊子販売 第一集から第十一集 (第六集を除く) を販売

②展示の充実を図る。

#### (2)新川民具資料室 収蔵品の整理を行う

### 5. 指定文化財補助・・・市指定文化財に対して、修理・管理・公開について補助する。

(1)修理費補助 有形民俗文化財 (山車) 3 件

(2)管理費補助 ①有形文化財

②有形民俗文化財 (山車)

③天然記念物 計 11 件

(3)公開費補助 有形民俗文化財 (山車)

計 5 件 (尾張西枇杷島まつり 5 件)

(4)文化財関連団体

西枇杷島町山車保存会

目 的 西枇杷島に所在する山車の保存・管理、尾張西枇杷島まつりにおける山車の運行を図る。

役 員 会長 後藤昌治 副会長・会計他

会員等 橋詰町、問屋町、東六軒町、西六軒町、杣西町の町内会会員

主事業 尾張西枇杷島まつりにおける山車運行他